

この絵図を印刷するにあたって

昭和三十二年五月 小生が当時研究していた「市田伝馬宿」のことで、下田郡史編纂室へ 市村威人先生をお訪ねした時、話のはずみで「信州伊奈郡之絵図」の話が出、「絵図の写」を見せて頂き 非常な感銘を受けた。

同席しておられた宮下操先生から、写しに行つてこられた時の苦心談、その外色々お話を聞きましたが、その中で先生が「何しろ、これは貴重な物だが、大きすぎて誠に不便で困る もう少し小さく縮図できるといいんだが。」と漏らしておられた。

その時小生もこの絵図が是非欲しくなり、縮図をやってみようと思ひつた。

農繁休業を数日後に控えた或日 市村先生をお訪ねし、「先日見せて頂いた伊那郡絵図をぜひ縮図させてほしい。」とお願いしてみた。断られるかと思つていたところ、

「やってみますか。しかし 今迄『門外不出』にしていたのだ、持つて行つてもいいが、なくしたりいためたりは 決してしないように。」

ということでも 貸してくださつた。

また 宮下先生からは 学校の教室のような広い所へ ひろげて、黒い糸で線を張つてうつせなど 縮図についての心得を教えて頂いた。

農繁休みを中心に 十数日かかりやつと図面ができ上がったので 早速市村先生の所へ 本図をお返し旁々縮図を見せて伺つたところ、「大変 よく書けた。」とほめて頂きうれしく思つた。

しかし「村名や村の石高などを書くのに この絵図に似合つた書体で書けないので 困つている。」をお話したところ、

宮下先生が、

「気に入らないかしらんが、おれが書いてやるわ。」

と 言つてくださった。

その後 宮下先生の都合のよい時に、小生が編纂室へお邪魔し、小生が写し図を読み、先生に縮図に字を書いて頂いた。字が細かい上に 村名などは独特の字が多く 先生も大変神経を使い苦勞してくださつた。

一回に 二・三時間 前後五回程 約一年ほどかかつて完成した。

「これを 印刷して希望者に配れば 非常に喜ばれるが。」

と 宮下先生からも言われ、他の先輩・同僚からも 何度か言われた。二、三の所へ聞いたりしてみたが、積極的に話にも乗つてもらえずにしまつていた。

たまたま 昨年暮に親戚の者が 東峰印刷会社を紹介してくれ、会社からも印刷可能との話が届いた。

宮下先生にも色々相談にのつていただき教育会の了解も得ようやく印刷することができた。

不備な面も多少無くはないが、近世史をご研究の方々、郷土史に関心興味をお持ちの方々のご研究に、幾分でも役に立てば、この上ない幸と存じます。

印刷にあたって 今は亡き市村先生のご厚情を感謝すると共に、終始ご助力、ご支援を賜つた

宮下操先生に厚くお礼申し上げます。

なお 色々ご無理なことをお願いしたが、心よく引受け、印刷してくださつた、東峰印刷会社の 山口正晃氏に深く敬意を表します。